



- ① 独立時に購入した汎用旋盤
- ② 2台目として汎用NC旋盤を導入
- ③ 刃物（バイト）は自ら研ぐ
- ④ 汎用旋盤で円弧を加工
- ⑤ さまざまな加工部品

むらまさ workshop

短納期
小ロットOK
試作OK

代表
くめむらまさのぶ
久米村 正信さん



旋盤工として35年以上の経験で汎用旋盤を使いこなす

旋盤を専門に省力機械の部品加工などを主に手がけています。設備は汎用旋盤とNC旋盤。旋盤工として35年以上の経験を積み重ね、短納期の加工にも汎用旋盤や自作の刃物（バイト）などで柔軟に対応しています。旋盤工として大切なことは汎用旋盤の経験だと考えます。鉄を削っている感覚を直接自分の手で感じる必要があります。バイトを自分で研ぐことも汎用旋盤の時代には当たり前のことでした。創意工夫に優れ、どこへ行っても工場長を任せられるような人が「職人」です。そのような職人になれるよう日々努めています。

■主な事業内容
旋盤加工

■主な取引先（納入先）
鉄工所

住 所 / 〒570-0043
大阪府守口市南寺方東通5-23-13
TEL / 06-4250-2615
FAX / 06-6115-5575
創 業 / 平成19年7月
従業員 / 2名

旋盤特化で、省力機械部品など 単品モノ、短納期加工に対応

事業内容と沿革

旋盤工一筋。独立して汎用旋盤と汎用NC旋盤を導入

平成19年に独立を決め、「むらまさ workshop」を立ち上げた。久米村正信代表が金属加工の世界に入ったのは35年以上前。旋盤工だった叔父の鉄工所で休みの度にアルバイトをした高校生時代からだ。その日以来、旋盤工一筋で歩んできた。

叔父の鉄工所からスタートを切った旋盤工としてのキャリア。独立までにさらに3社で旋盤工として働き続けた。勤務したのがフライス加工がメインの企業ばかりだったことから、貴重な旋盤工として重宝されたという。「フライス

加工を2日から3日だけやらされたことがあったが、とにかく早く旋盤に戻りたくて」と、自身も旋盤にこだわってきた。現在の設備は汎用旋盤と汎用NC（数値制御）旋盤が1台ずつ。独立時に中古の汎用旋盤を購入し、その後に新品の汎用NC旋盤を追加した。省力機械の部品などの一品加工を主に手がけ、検査機や試験機などの精密な部品の加工依頼も多い。旋盤加工専門の町工場として、中小企業の町を支えている。

強み

加工形状に適したバイトを自ら研いで製作

汎用旋盤を使いこなす技術力が強みだ。NC旋盤が普及して久しいため、汎用旋盤を使い続けている町工場は減る一方。しかし久米村代表は「加工時の刃物（バイト）に対する限界は、実際に目で見て音を聞かなければわからない。手に伝わってくる切削の感覚も欠かせない」と話し、職人にとって汎用旋盤の経験が重要であることを強調する。

汎用旋盤を使いこなすことで、短納期の注文にも素早く対応できる。「実物を持ち込んできて、今すぐ削ってほしいと頼まれることもある」と話す。依頼された加工形状に適したバイトを、自らグラインダーで研いで用意できるのも強みだ。「どうやって加工したのか教えてほしいと納品先から言われることも結構ある」という。

「昔の職人は皆、自分で刃物を作っていたが、最近は誰もグラインダーの前に立たなくなっている」と指摘する。汎用旋盤と同様、バイトを研ぐことができる職人も減ってしまった中で、同社は職人仕事を守り続けている。

取り組み

汎用旋盤使いこなし 厳しい要求に応える

「工作機械の中でも旋盤は難しく、修業は10年かかる」と説明するようにマザーマシンとされる工作機械の中でも旋盤は特別。しかし汎用旋盤を使いこなすことができる職人の数は減り続けている。そのため同社でも独立前に勤めていた企業から仕事が回ってくるほか、口コミによる紹介で旋盤加工の依頼が飛び込んでくる。「旋盤工を探しているところが多い」と久米村代表は話す。

旋盤工でもっとも重視しているのは「真円と歪み」という。鉄を削ると熱で膨張したり曲がったりする。それでも「仕上げの段階でちゃんと真円が出ていることが旋盤工として一番大事なこと」と強調する。

自らバイトを研いで製作するのも旋盤工としての技。例えば旋盤で円弧を削り出すには既製のチップだけでは限界がある。しかし特注品に頼れば時間も費用もかかる。同社では自作のバイトと汎用旋盤を使いこなすことで、顧客の厳しい要求に応えている。

今後の展開

取引先との長い関係を見据え、後継者を育成

久米村代表が叔父の下で修業したのは通算5年。その後は自力で腕を磨いてきた。「職人に10年ぐらいつき、みっちり教わりたかった」と振り返る。しかし職人の数が減ってしまった現在、周囲が求めるのは後継者の育成だ。ちょうどそんなタイミングで、長男が平成29年春に同社へ入社。「一から仕込んで育てていかないとけない」という久米村代表の言葉には力が込められる。

わずか10坪の貸し工場からスタートした同社だが、最近になって20坪の工場に引っ越した。長男の入社もあって、いずれ汎用旋盤をもう1台導入したい考えだ。長男が汎用旋盤を使いこなせるようになったら、さらに汎用NC旋盤も追加導入できるスペースは確保した。

得意先と良い関係を築けているだけに「この先、10年や20年にとどまらず、もっと先まで取引関係を続けていきたい」と考えており、「（自分と息子で）『1+1が3』になれば良い」と話し、自身も職人としていつまでも現役にこだわり続ける。